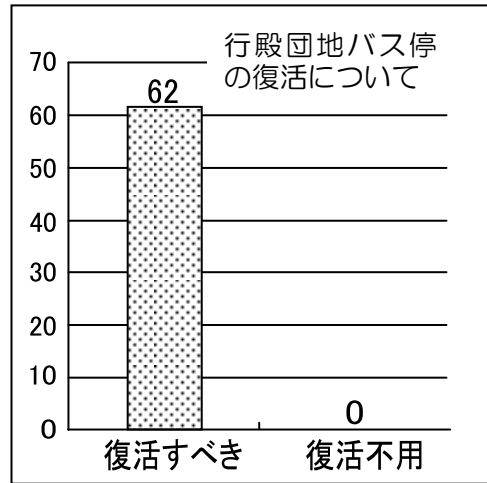
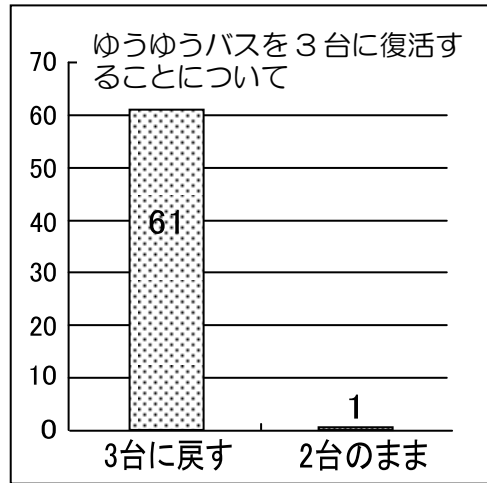
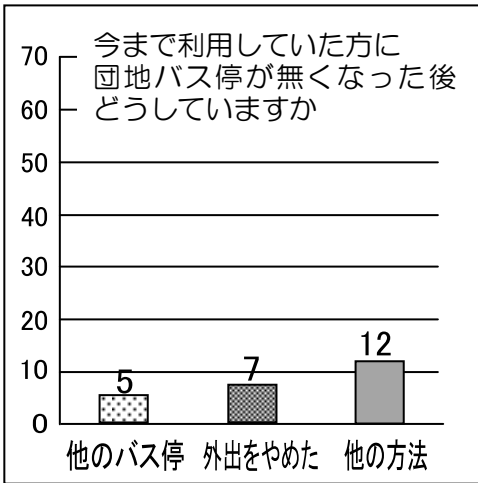
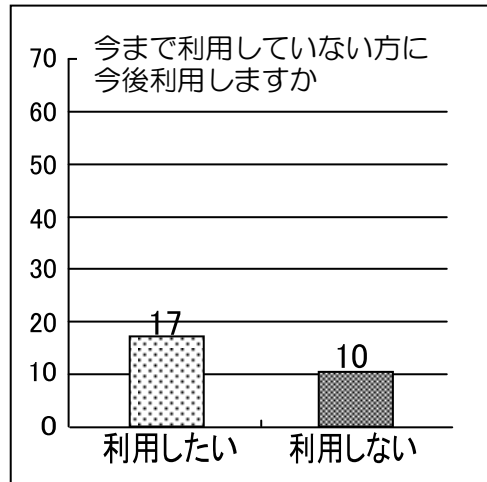
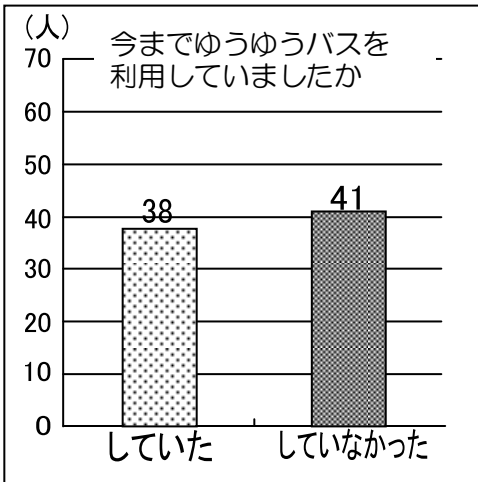


ゆうゆうバスのアンケート(行殿団地にて)

10月9日、10日、さかの光雄市会議員と日本共産党交野中部居住支部が、行殿団地の方を対象に、ゆうゆうバスのバス停廃止について、アンケート調査を行いました。183軒の中82軒から回答をいただきました。

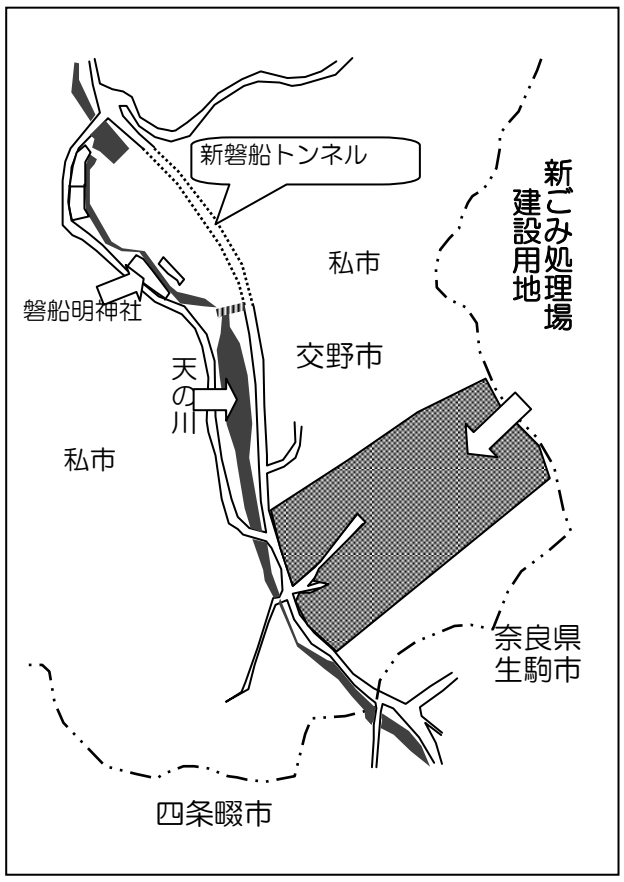


新ごみ処理施設 建設予定地から

環境基準の160倍のダイオキシンを検出

土壌・地下水調査で環境基準オーバー

10月22日付新聞で、岩船地区に計画されている四条畷市・交野市清掃施設組合の、新炉建設予定地から、ダイオキシン類が環境基準の160倍の値が検出されたことが、報道されました。議会には、22日、土壌・土質等調査結果についての概要報告書が提出されました(市のホームページでも公表されています)。



調査は、計画地を30mメッシュで区画し、79地点の調査を実施。土壌調査では、表層土壌は1地点で、ふっ素が基準をオーバー。岩盤直上では6地点で、鉛・砒素・ふっ素・ダイオキシン類が基準をオーバー。地下水は18地点で、ベンゼン・鉛・砒素・ふっ素・ほう酸・ダイオキシン類が基準をオーバー。地下水においては、1地点でダイオキシン類が基準の160倍を検出、また、他の1地点でベンゼンが基準の28倍を検出しています。

以前から鉛・砒素・水銀などを検出

交野市と四条畷市の「ゴミ」は、四条畷市清滝にて、1号炉(昭和42年稼働)、2号炉(昭和48年稼働)で焼却しています。いずれ焼却炉が老朽化することで、昭和52年に今の岩船地区を新炉の建設予定地としました。この予定地は、もとは小高い山林であり、昭和40年代に大規模な土砂採集が行われ、その後昭和50年頃に建設廃棄物を含む残土で埋め戻されました。

平成4年に土壌調査が行われ、鉛・砒素・水銀が検出されていました。それにもかかわらず、平成8年から10年にかけて、当時の北田市長が、詳しい土壌調査もせずに、「ゴミが埋まっている土地の値段で、土地開発公社に土地買収をさせました。

こんな事態になることは、以前から想定されていました。これから、大阪府の指導のもとに、処理を検討していくことになりま

す。処理方法・費用はまだ示されていません。

